

# 感染を防ぐため、重要な手指衛生

重要な・手洗い・手指消毒・ハンドケア

感染症を防ぐ第一歩として、接触感染を防止するための手指衛生の講習会が13日、城西病院レストラン「ニコキッチン」で開かれました。講習会には約100人の職員が参加し、手指衛生の重要さと正しい手洗いなどについて学びました。引き続き、城西グループの新人職者を中心に約30人が、実際に手洗いの効果を目で確認することができるローションを利用した手洗いの実習講習を受け、手洗いの大切さを再認識しました。

この講習は、感染対策委員会の感染対策研修会として開かれ、医療衛生用品などを扱う東京サラヤの小池努医専2課課長を講師に招いて開催しました。

小池課長は、接触感染、空気感染、飛沫感染について解説し、「医療現場では接触感染が最も多い」と指摘。手指消毒を怠ったことが医療訴訟で過失認定され、多額の賠償金支払いの判決が出された例などを紹介しました。

手指衛生では、目に見える汚れがある場合は石鹸と流水で洗い、目に見える汚れがない場合はアルコール消毒剤で手指を消毒。手指衛生は十分に時間をかけて洗うことが大切と指摘しました。また、手が荒れた場合は、乾燥した皮膚が剥がれたり、皮膚のバリアが弱くなって感染する危険性が高まるとともに、荒れた皮膚のために手指衛生がおろそかになるケースもあることから、ハンドケアの大切さも強調しました。

引き続き、手洗いの効果を紫外線で確認できる

ローションを使い、手指衛生の実技に移りました。ローションをつけて手洗いした後、紫外線で確認していましたが、指の付け根や爪の周囲、手首など、見落としがちな部分に汚れが残っているのを再認識し、手指衛生の大切さを再確認していました。

平成28年7月15日

